

## 第1回北川村保小中学校運営協議会 概要

- 1 日時 令和2年6月19日（金）18:30～20:00
- 2 場所 北川小中学校多目的ホール
- 3 参加者 ■運営協議会委員：11名  
阿部委員、田所委員、井津委員、西岡委員、濱渦委員、中村委員、小松委員、  
田中委員、松崎委員、山崎(和)委員 山崎(美)委員  
■アドバイザー：2名  
木内政策参与、前田指導主事（東部教育事務所）  
■事務局：8名  
野見山副村長、田中教育長、西岡次長、百々次長補佐、牛窓教頭、五百蔵教頭、  
鶴和教諭、利岡教諭 **合計21名**

### 4 内容

#### (1) 田中教育長あいさつ

#### (2) 自己紹介

#### (3) 規約について（概要説明）

##### ・第2条（目的）

保護者及び地域住民等の学校等の運営への参画及び支援・協力を促進することにより、学校等と保護者及び地域住民等との信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒等の健全育成に取り組むものとする。

##### ・第4条（所掌事項）

対象学校等の所属長は、次に掲げる事項について、毎年度基本的な方針を作成し、協議会の承認を得るものとする。

(1) 学校等経営計画及び教育課程等の編制に関すること

(2) 組織編成に関すること

(3) 学校等への支援計画に関すること

##### ・第5条（意見の申し出）

協議会は、対象学校等の運営全般について、教育委員会又は対象学校等の所属長に対して意見を述べることができる。

##### ・第7条（会長及び副会長）

協議会に会長及び副会長各1名を置き、委員の互選により選出する。

##### ・第8条（守秘義務）

委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。

##### ・第9条（任期）

委員の任期は1年とし、再任を妨げない。 等

#### (4) 会長・副会長の選任

・会長：小松 大介 委員（小中学校PTA）

・副会長：西岡 和 委員（地域代表） 以上決定

#### (5) 村の教育方針について（子育て教育ビジョンを基に説明）

- ・本村の子育てや教育の在り方については、昨年度保護者や地域住民の皆様のお聞きしながら、村の取組や今後の方向性を示した教育方針として「子育て教育ビジョン」をとりまとめた。このビジョンには、15歳までに育ててほしい子どもの姿を描き、その子どもの姿の具現化を図るために、「保小中の一体的な取組」「北川学」「地域ぐるみ教育」「子育て支援」の4つの柱に集約し取組を行っている。
- ・「保小中の一体的な取組」については、「15年間の一貫した教育で誰一人取り残されず学ぶことができる魅力的な環境を創る」ことを目的として、保小連携、小中連携に取り組み、いわゆる小1プロブレムや中1ギャップなどの段差を抑え、15年間を見通して子ども達の持つ力を最大限に発揮できるような実践を、保小中一体となって積み重ねていきたい。
- ・また、本年度 ICT 環境の整備については、子ども一人一台にパソコン端末を配布する他、大型提示装置、いわゆる大画面で教材や映像などを映し出せる機器をすべての普通教室に導入する予定。また、コロナウィルス感染症による再度の臨時休校などを想定して、家庭への授業配信や外部人材との授業が円滑に実施できるように、普通教室にマイクやカメラ等の周辺機器の整備を行う予定でもある。パソコンの導入時期については、当初はできれば夏休み中にと考えていたが、コロナウィルスの関係で製造ラインに支障がでている他、全国一斉に受注が大幅に増えることなどから、導入時期が9月以降大幅に遅れることも想定されるところ。
- ・本村雇用の公認心理師については、保小中にそれぞれ週1回訪問し、必要に応じて子どものケアを行うなどしながら、子ども一人一人の個性や特性を最大限に発揮できるよう取組を進めている。保護者や地域の皆様も、何か相談などあれば何なりと公認心理師を活用していただきたい。
- ・「北川学」については、村の地域資源を題材にして、小中9年間を見通した系統的なカリキュラムを作成し実践することによって、子どもの探究心と、故郷への愛着と誇りを今以上に育むことを目的としている。昨年度に引き続き、今年度も全学年の公開授業を予定しているが、コロナウィルスの影響もあり、当面は公開授業実施学年の保護者のみの公開としている。状況が今以上に改善されることになれば、幅広く村民の皆様にも案内をさせて頂く予定。
- ・「地域ぐるみ教育」については、運営協議会とともに、地域住民が教育活動にボランティアとして参画する仕組みである「地域学校協働本部」の一層の組織化を図りながら、コミュニティ・スクールとして地域と共にある学校づくりを進めていく。学校ボランティア登録カードは、村内に全戸配布し周知と教育活動への協力者を募り、昨日までの登録者は53名で多くの方に賛同いただけるようになってきた。まだ提出されていない方はぜひ登録していただき、地域ぐるみで子どもたちを育む風土を作っていきたい。
- ・「子育て支援」については、保護者の皆様からのご要望などを踏まえ、本年度から、従来は15歳までであった医療費の助成を18歳まで拡充する他、新たに高校に通学する費用の助成の実現に至り、すでに支給を開始している。子育て支援の充実を図ることによって、子育てしやすい環境を整備するとともに、外からも北川村は素晴らしい、ぜひ移住したい、教育を受けさせたい、と思ってもらえるように取組の充実を図っていきたい。なお、共同宣言については、保護者と教育行政がそれぞれの役割と責任を果たし、ともに手を取り合いながら子どもの健やかな成長を育むことを目指し、5月1日に「共同宣言」をまとめ、保護者の皆様に配布を行った。今後は、保護者の皆様に村が進める政策や教育活動（健康増進の一環としての検診の受診、保育や学校の活動への参加など）に積極的に参画いただくとともに、教育行政としても保護者や地域の方々の声を真摯にお聞きしながら、地域一丸となった子育て環境の充実を目指していきたい。

- ・「今後の検討事項」については、特に、「子育て・文教エリアの整備と保小中の一体的な組織体制の在り方」について、子どもにとってより魅力的な環境となるように、保小中の15年間を見通した保育・学校の在り方とともに、どのような環境整備や組織が必要なのか検討していきたい。村内には、村民会館に図書室があるが、規模も含めて必ずしも利便性が高いとはいえない状況であり、村の中心部には子どもや子育て世代の方々が憩いの場として利用できる公園がない。検討するならば、単なる保育所や学校の施設を含めた環境整備だけではなく、「子育て・文教エリア」として総合的に捉え、住民の方々が豊かに暮らせる環境について、今後の会議で皆様にご検討いただき、年度末までに具体的な方向性を定めたい。なお、保育所の活動や学校の授業で実際に取り扱う内容となる「食育などの子どもの自立や感性を磨く取組、ゆずを基盤とする教育活動、語学力向上の取組、ICTを活用した教育内容」については、より専門的な内容となるので、保育所や学校などと協議を重ねながら一定の方向性を見出し、報告させていただきたい。

## (6) 保育所・小中学校の運営方針について

### 【保育所】

- ・運営方針：「心身共に健康で、生涯にわたって自己を発揮し、人間性豊かで主体的に行動できる乳幼児の育成を目指す」
- ・保育目標：「子ども一人一人を大切にし、保護者からも信頼され地域に愛される保育所を目指す」
- ・目指す子ども像：○元気で丈夫な子 ○自ら考え行動する子 ○感性豊かな子
- ・令和2年度の保育目標を達成するための重点目標と具体的な方策：
  - ☆子ども一人一人が言葉で伝える喜びを感じ、相手の話を聞こうとする意欲や態度が身に付くための保育の展開
    - ①個々の子どもの育ちや発達、特性を踏まえた援助を行う。
    - ②食育活動を通じて言葉で伝え合う喜びが感じられる場の設定を行う。
  - ☆子どもの内面を読み取り、確かな成長を支える職員の資質向上
    - ①遊びを捉え子どもの内面理解をするための園内研修を行う。
    - ②育成記録や個別支援の指導計画、写真を用いた事例等を通じて、視点の共通理解と記録や指導計画の書き方等について学び合う。
  - ☆様々な機会を通じて保護者や地域の方と連携を深める
    - ①コミュニティ・スクールを通じての地域の方との交流活動を行う。
    - ②保護者との連携による基本的な生活習慣の定着
- ・園児数：22名
- ・職員数：10名（臨時職員含む）
- ・年間行事予定：「令和2年度みどり保育所経営計画（5）年間行事予定」参照
- ・地域人材による保育所支援活動：「地域人材による学校・保育所支援活動一覧」参照
  - ※園長より：「昔遊びや野菜等の収穫体験の他、草刈り・剪定等の環境整備や農園の畝づくりなど協力して頂ける方がいればお願いしたいです。また、豆まきの鬼役など中学生にお願いしていましたが、インフルエンザ等でここ2年ほど保育士がしているので、中学生ができないようなら誰かにお願いできれば助かります。」

⇒ 以上、全会一致で承認

## 【小中学校】

- ・ **経営理念**：「子どもたち一人一人の幸せと可能性を追求する学校づくり」
- ・ **経営方針**：チーム北川として、組織的・協働的に目標実現や課題解決に取り組む。
  - ①学校組織は新しい時代を見通して研修を積み、教育目標達成のために改善し続ける。
  - ②児童生徒一人一人の個性を尊重し、個を生かした温かい人間関係づくり・集団づくりを行う。
  - ③全教育活動を通して人権尊重に基づく指導を行い、特に、承認指導を重視する。
  - ④教科横断で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。
  - ⑤保小中連携により、15年を見通した系統的・継続的な学習指導・生活指導を行う。
  - ⑥地域と連携・協働し、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を創意工夫する。
- ・ **教育目標**：「自立・協働・貢献 ～すすんで・みんなで・みんなのために～」
- ・ **目指す児童生徒像**：
  - ①主体的・協働的に学び、身についた力を活用できる児童生徒
  - ②思いやりの気持ちを持ち、適切に行動できる児童生徒
  - ③心身ともに健康で、自他の生命を大切にできる児童生徒
  - ④地域に誇りと愛着を持ち、貢献しようとする児童生徒
- ・ **目指す学校像**：
  - ①児童生徒一人一人が大切にされ、活躍できる学校
  - ②お互いに認め合い、学び合い、高め合える学校
  - ③環境が整い、安心・安全に学べる学校
  - ④保護者に信頼され、地域とともに歩む学校
- ・ **目指す教師像**：
  - ①人間性豊かで協働の精神・使命感を持つ教師
  - ②児童生徒をよく理解し、個性を認め、自尊心や自立心を育む教師
  - ③常に工夫・創造し、資質や指導力の向上に努める教師
  - ④保護者や地域の思いを受け止め、連携を大切にする教師
- ・ **児童生徒数**：小学校50名 中学校25名
- ・ **職員数**：小学校19名（支援員・用務員・大学院等留学教員含む。）  
中学校16名（支援員・用務員・ALT含む。）
- ・ **年間行事予定**：別紙「小学校・中学校年間行事予定」参照
- ・ **小中一貫**：「校長1名体制となり、一貫校として児童生徒理解や情報共有等を充実させ小中9年間を見通したより系統的・継続的な学習指導・生徒指導の充実を目指す。」
  - ・ 加配教員は小学校複式学級解消に充て、昨年同様6学年全てが単式学級となり、少人数を生かしたきめ細やかな学習指導を行っている。
  - ・ 乗り入れ授業は、小6外国語や小6音楽等に中学校教員が入る他、中1数学に小学校教員が入り、学習内容理解や児童生徒理解の充実を図っている。
  - ・ 合同行事や合同研修は、当初予定していた内容がコロナウィルスの影響で実施できていないが、今後は状況を見て前向きに検討していく。
  - ・ 勤務時間を小中で揃えた。（8：05～16：35）

- ・乗り入れ授業や合同研修を行いやすくするため、1～3校時と6校時の小中の授業開始時刻を揃えた。

・地域人材による学校支援活動：「地域人材による学校・保育所支援活動一覧」参照

※学校長より：「昨年度から北川学の活動の一環として、地域の方々の支援をいただきながら学習を行っており、本年度もたくさんの方にご協力頂く予定です。依頼のあった時はよろしく申し上げます。愛校作業日は当初8月30日から8月23日に変更となりました。特に中学校のグラウンドは草刈り等に人手が必要ですので、ご協力頂ける方があればありがたいです。」

⇒ 以上、全会一致で承認

(7) 今後の日程

- ・年間6回程度開催予定。
- ・次回会合は8月3日～7日の間に開催予定。（後日日程調整を図る）

(8) その他（木内政策参与より）

- ・コロナ禍において、ICTを駆使してシステムやアプリを開発し早い段階で感染防止対策に努めた台湾や韓国、中国などのアジアの諸外国と比べて、日本の対応力の脆弱性が明らかになった。
- ・中国は近年、海外への留学生を多く輩出しており、その留学生が工学等を学んだ後、母国に帰りICT等を活用して国を支える人材が増加するなど、人材育成の面で秀でた国策を打ち出している。
- ・一方で日本はどうかというと、留学生の数自体が圧倒的に少なく、大学教育を見ても入学に厳しく卒業は容易にできるシステムになっている。また、知識偏重教育が中心で、演習や実験などの体験教育やスキルが身につけにくいという課題もみえる。いずれにしても、人材育成をどのように図るかが一番の鍵である。
- ・北川村が目指す子ども教育は、15年を見通した長期的な視野に立った人材を育成できるメリットがある。小中一貫教育は全国に多くの事例があるが、保小がつながるシステムは秀逸で、人格形成の充実を図ることができる。
- ・また、従来の知識教育と体験教育をバランスよく位置付けることで、子どもに生きる力を身に付けさせることができる。また、子どもの感性を磨くには10歳までが効果的であり、食育やアート教育で実現することができる。
- ・今後は、コロナ第2波に備えたオンライン授業や保護者のライフスタイルを考慮した学校行事等の配信などICTを活用した教育の推進や、子どもの自立や感性を磨くための食育等の充実を目指して議論してほしい。また、保小中一体的な学びや組織の在り方についても協議して頂きたい。
- ・コロナ禍で、都市部から地方へ、豊かさを求める流れが加速してくる。ぜひ北川村ならではの特色ある子育て・教育環境を創り上げ、住みやすい村づくりをPRし、移住促進にもつなげてほしい。